

2020年新春

旧年を厳しく総括し、韓国敵視政治を打倒しよう！

新たな民衆の台頭と結合し

最悪・最長の安倍政権、この延命を許したまま2020年の新年を迎えることとなってしまった。新年は必ず、我々労働者人民の力で安倍政権を打倒し、それを機に大きな情勢転換をかちどちらねばならない。

その情勢転換の性格は、「一言で言うと、新しい東アジア民衆の台頭に逆らって、日本の安倍政権が始めた逆流、これを打倒・一掃することである。韓国敵視政治の打破をはじめ、闘いをつけて、民衆の東アジア実現に合流する日本の民衆の、新しい運動と組織を生み出すことである。このかんの安倍政権との闘いをありかえりつつ、新年の闘争方向を探つてみよう。

* * *

12月9日、安倍政権と与党自民・公明は、国会野党の「桜を見る会」追及から逃れるように、臨時国会を開会させた。国会が(1月20日頃まで)無いままでして、その間に自衛隊中東派兵の閣議決定、日韓関係での韓国右派勢力との裏取引、「桜を見る会」問題もみ消し、等々をやろうとしている。閉会日の記者会見で安倍首相は、「憲法改正は、必ずや私の手で成し遂げていきたい」とおのれの執念を吐露した。

そこで、閉会日の記者会見で安倍首相は、「憲法改正は、必ずや私の手で成し遂げていきたい」とおのれの執念を

吐露した。「私の手」でやることに意味があるとするのだから、まさに憲法改正の私物化である。

安倍は、思い残すことは改憲だけ、という敗北・無責任状態に入つてき

た。また同時に、「国民の信を問うべき時が来たと考へれば、解散・総選挙を行ふことを躊躇はない」とも述べた。衆院の任期は2年10月、安倍総裁の任期は2年1年9月。新年は7月東京都知事選で、東京五輪と続く。旭日旗を掲げ、ナショナリズムを煽り、五輪「成功」しました。解散

21年の大学共通入試での民間英語試験、国数記述試験の導入は、当事者の反対運動によつて、高校2年生や教育労働者の反対運動によつて、高さは、二度ほどあつた。一つは、18年春を頂点とした、この森友・

間、安倍政権を倒すチャレンスは、二度ほどあつた。一つは、18年春を頂点とした、この森友・

文書管理法違反である。森友・加計問題の繰り返した。即ち、公文書はシユレッダーで破棄という公

事の私物化であり、それへの安倍後援会からの招待

という公職選挙法違反、また国会で野党が質問し

た。たまたま、野党が質問したとき、公文書はシユレッダーで破棄という公

文書管理法違反である。森友・加計問題の繰り返

した。

これまでの好機に安倍を攻めきなかつたことが、19年7月参院選での安

倍与党の辛勝という結果に、制度的には収束されたのである。

これらの好機に安倍を攻めきなかつたことが、19年7月参院選での安

倍与党の辛勝という結果に、制度的には収束されたのである。

も驚き、民心に変化が生じた。安倍の暴政糾弾が全国的に爆發していれば、政府危機が生じただ

る。この状態は、朝鮮半島での血を流す「政治」、

この状態は、朝鮮半島での血を流す「政治」、

